

加佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 6月号
平成29年6月1日
舞鶴市立加佐中学校



TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp

自力で解決する力を兼ね備えています!



もしも
かさです!

最近、電話といえば携帯、携帯といえ
ばスマホが主流です。ガラパゴスケー
タイ（ガラケー）の身としては、ラインができないから、かえって便利だと
斜に構えています。若者だけが住む家に固定電話がないのは今や普通で、
やがて固定電話は博物館でしか見られなくなるかもしれません。ところで
固定電話を使っていると受話器のコードが、ねじれて困る経験はありませ

本校が目指す生徒像

知；真面目に考え判断力のある子
徳；思いやりを持って助け合う子
体；健康でたくましく行動する子

んか？右手で持っていた受話器を左手に持ち替えて使用したりを繰り返すので、その際にコードがねじれてしまうのです。このねじれを直すために、ねじれている箇所を中心に受話器を持ってクルクルと回してみると、元に戻るところか案外更にねじれたりします。この様な時は、電話機本体に近い方のコードを持って受話器を真下に垂らせば、受話器が自らクルクルと回って、しばらくするとねじれが解消できます。同じことが、子どもに対しても言えるのではないのでしょうか。誰もが、悩みを複数抱えていて、それらは互いに絡み合っています。大人は子どもが、何か困っていると、その事象だけを焦点化して“あれやこれや”と手を差し伸べます。良かれと思った手助けが、案外子どもの心や体をよりねじっているケースがあります。ほったらかしは、論外ですが、押さえるべき点だけをしっかりと押さえ、後は子ども自身の力に思い切って任せる必要があります。子どもは、自分自身で壁を乗り越える力を秘めています。常に子どもの状況理解に努めつつ付かず離れずの距離間を保ち、子どもの可能性を信じて接したいです。これは、大人の務めなのですが大変難しいことでもあります。

ICTの活用による授業の取組

ICT (Information and Communication Technology；情報通信技術) の活用は、これからの教育現場には、欠かせません。大変恵まれたことに加佐中学校の各教室には、大型テレビが配備されており、授業で利用しない手はありません。単にビデオを映すだけでなく、例えばタブレットで子どもの書いたものを写真に撮り、それを無線でテレビに飛ばして映す等の活用を考えています。こうすれば、子どもがノートに書いた内容を学級全体に説明するとき、再び板書する時間が省けます。また、板書が終わるまで他の子どもが待っている必要もなく、テンポの良い授業が展開できます。何より浮いた時間で話し合い活動等の充実が図れ、互いの学びを深めることができます。加えてタブレットは、画面の拡大が容易であり、無線を利用すれば配線も気にせず自由に教室内で動きながら使えるので便利です。ただ、あくまでもツール（道具）であり、授業の本質ではありません。



校長 山口 茂
教職員一同